

1例では、1回目手術後がⅢ度で、2回目手術後はⅠ度
に改善した。結局、現在は16名中、13名がⅠ度、3名が
Ⅱ度であった。

現在も心臓病らしい症状があるか否か(表2-Ⅲ)。

なしと答えたもの7名、ありと答えたものは9名であ
った。症状の内容としては、不整脈8名、疲れやすい1
名、風邪ひきやすい3名、癩れんを時々おこす1名であ
った。

手術の効果については(表2-Ⅳ)。

よくなったと答えたもの15名、多少よくなったと答え
たもの1名、悪くなったものはいなかった。

手術後の経過の変動について。

答えたものは1名で、手術後4年頃まではよかったが、
5年頃から悪くなったとしている。本症例は術前からあ

ったてんかん発作のため、時々失神発作をおこすとい
うことであった。

退院後、現在まで大きな病気にかかったことがあるか
否かについて。答えたもの3名で、1例が術後肝炎、2
例が術後1年と6年にそれぞれ肺炎にかかっている。

III. ま と め

大血管転位症の根治手術生存例16名に対して、アンケ
ートにより術後の長期予後を調査した。術後経過年数は
2年10月から8年3カ月で平均4年11カ月(標準偏差
1年9カ月)であった。術後の遠隔成績は前述のごとく
概ね良好であり、現在薬物療法をうけているものもいな
かった。しかし、現在も心臓病らしい症状を訴えている
ものが9名あり、そのうち8名が不整脈で、今後とも厳重
な追跡観察が必要と痛感させられた。

大 血 管 転 位 症

東京医科歯科大学胸部外科 浅野 献一

完全大血管転位症(TGA)に対して根治手術を行っ
た症例が少なかったため単心室で、大血管転位を合併し
たもの(SV)も含めて検討した。

根治手術は表1の如く6例あった。

表 1

| | 例数 | 病院死 | 遠隔死 | 不明 | 生存確認 |
|-------|----|-----|-----|----|------|
| TGA I | 1 | 1 | | | 0 |
| II | 2 | 1 | | | 1 |
| III | 2 | 1 | | | 1 |
| SV | 1 | 1 | | | 0 |
| | 6 | 4 | | | 2 |

TGA I, IIは Mustard 手術, IIIは Rastelli 手術であ
る。IIは VSD も同時に閉鎖し、全く愁訴なく3年経過
している。IIIは術後の心カテで Hancock 弁前後に圧差
30 mmHg を生じているが心不全はない。術後、約1年
経過してから房室解離、完全房室ブロックが出波し、目
下、ペースメーカー植込み計画中である。

姑息手術は表2の如く45例に行われた。

表 2

| | 例数 | 病院死 | 遠隔死 | 不明 | 生存確認 |
|-------|----|-----|-----|----|------|
| TGA I | 2 | 2 | | | |
| II | 4 | 3 | | | 1 |
| III | 4 | 3 | | | 1 |
| SV | 35 | 5 | 5 | 5 | 20 |
| | 45 | 13 | 5 | 5 | 22 |

生存例中、肺動脈バンディング1例、Glenn 手術1例
を除くと他は何れも肺動脈狭窄に対してBlalock 手術な
いし大動脈肺動脈グラフト吻合が行われた。予後調査回
答のあったものは成人2例、小中学生9例、幼児8例で
成人は共に仕事に従事しており、小学生の1例は先天性
完全房室ブロックでペースメーカー植込みが行われてい
るが、この例が在宅訪問学級であるほかは通学している。
幼児については1例か発育不変であるが他は発育がよく
なったとのべている。但し、全例共、ポリチタミーがあ
り、疲労し易く、幼児にあっては友と一諸に遊ぶべ
いという制限がみられた。しかし、適宜、ジギタリス剤の投与
をうけた例もあるが、心不全死亡はみられていない。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります ↓

完全大血管転位症(TGA)に対して根治手術を行った症例が少なかったので単
心室で,大血管転位を合併したもの(SV)も含めて検討した。

根治手術は表 1 の如く 6 例あった。